

HA8000 SERIES

メールシステムを刷新して管理を一元化。24時間365日止められないシステムをWindows® 2000 Advanced ServerとIAベースの日立アドバンスサーバ「HA8000」で構築



鹿島建設株式会社 ITソリューション部
情報基盤グループ 長
渡辺 克彦氏



鹿島建設株式会社 ITソリューション部
情報基盤グループ
大久保 健一氏



鹿島建設株式会社 ITソリューション部
情報基盤グループ
もとけ
本生 亜矢子氏

USER PROFILE

鹿島建設株式会社

本社：東京都港区元赤坂1-2-7
創業：1840年
設立：1930年
資本金：約640億円
売上高：1兆7,000億円（2001年度連結）
従業員数：約1万1,250名
URL：<http://www.kajima.co.jp/>

事業概要：わが国を代表する総合建設業。ダム、トンネル、道路などのインフラの施工や、超高層ビル、マンションなどの建設、都市再開発などを幅広く手掛ける。近年は環境分野にも進出し、高い評価を得ている。



鹿島建設株式会社

建設大手の鹿島建設株式会社（以下、鹿島建設）では、より戦略的な活動のできるコラボレーション環境を求めて、UNIXをはじめ種々混在環境をWindows環境にコンソリデーションするとともに、メールシステムを再構築し大幅な管理コストの低減を実現。同社では、サーバもクライアントもOSをマイクロソフトのWindows® 2000で統一しており、メールシステムの選定にあたっては、Active Directory™とMicrosoft® Exchange 2000 Serverの組み合わせを選択した。さらに、1万4千名という大規模なメール利用を支えるプラットフォームとして、日立のアドバンスサーバ「HA8000シリーズ」を採用。Windows® 2000 Advanced Serverと、インテル® Xeon™ プロセッサを搭載し、可用性に優れたIA（Intel® Architecture）サーバであるHA8000の組み合わせは、24時間365日止められないミッション・クリティカルなメールシステムを、確実にサポートしている。

基幹システム再構築を契機に メールシステムも刷新

2000年、鹿島建設は、全社情報インフラの刷新をスタートした。

「生産系から総務/人事系まで、抜本的に再構築する一大プロジェクトでした。その一環として、電子メールシステムも、再構築に踏み切ったのです」と、鹿島建設 ITソリューション部情報基盤グループ 長 渡辺 克彦氏は説明する。

鹿島建設では1985年からメールシステムの導入を開始。その後、11支店約50営業所に利用が拡大していくが、現場の環境とニーズに応じて、さまざまなメールシステムを現場主導で選択していた。

「10カ所に23台のメールサーバが散在していましたから、管理も分散し、重複作業が発生していました」と渡辺氏は言う。ドメインが異なるため、メールの交換はできても、ID/パスワード管理がシステムごとに異なり、異動の時期にはユーザー管理が大変な負担になっていた。

「いくら基幹システムを再構築しても、メールなどのインフラが整備できていなければ効果は出ないという思いがありました。業務改革を目指したKDNS（Kajima Digital Network Service）プロジェクトとメールシステム刷新は、表裏一体、不可分のIT戦略だったのです」と渡辺氏は言う。

サーバもクライアントも Windows® 2000環境で全社統一

システムの刷新にあたって、鹿島建設は自らが主体性を持って、OS、ディレクトリサービス、メールシステム、システムインテグレータ、ハードウェアという順番で詳細を決めていった。

「1999年に全社的にOSを見直し、サーバもクライアントも、マイクロソフトのWindows® 2000環境で統合することを決めていました」と渡辺氏は言う。決定以前は、クライアントはWindows® 95で、サーバはWindows NT® やUNIXの混在状態。NetWare®やロータスノーツを使っている部署もあった。全社標準OSとしてWindows® 2000を選択したのは、サーバOSのWindows® 2000 Advanced Serverをはじめ、技術的に安定し、操作性も優れているうえ、将来確実にメジャー製品になるであろうと判断したためである。

OSがWindows® 2000であれば、ディレクトリサービスも、Active Directory™を選択するのが自然の流れである。鹿島建設はユーザー管理とセキュリティ確保を重視していたため、先行して2000年10月から、ユーザー認証にはActive Directory™を使用していた。

次に検討したのはメールシステムであり、いくつかの製品を比較検討した結果、Exchange 2000 Serverを選択した。優れた操作性と、掲示板、スケジュール共有やワークフロー構

築など、グループウェアの機能がそろっていることを評価した。鹿島建設では、単なるメールシステムの統合に終わらせることなく、より戦略的な活動のできるコラボレーション環境を実現することを重視していたからである。

サーバ台数の見積にも 日立の技術力

最後に、要件を明示して、複数のシステムインテグレータに提案を求めた。日立を選定したのは、提案力、技術力、提案価格、そしてマイクロソフトとの密接な協調関係を評価したためだ。

「日立の提案は、さまざまな点で優れていました。サーバの組み合わせかた、サーバ台数の見積りかたなどにも、Exchange 2000 Serverのシステム構築力が優れていると感じさせたのです」と、鹿島建設 ITソリューション部 情報基盤グループ 大久保 健一氏は言う。

ここで特筆しておきたいのは、提案を評価するのに先立って、鹿島建設の担当者はマイクロソフトのコンサルティングを受けていることだ。Exchange 2000 Serverのシステム構築のノウハウをきちんと学習したうえで、システムインテグレータ各社の提案を評価しているため、その目は厳しく、しかも的確である。

鹿島建設は社員1万2千名を擁しており、メール利用者は1万4千名にも達する。日立は、こうした大規模利用でどこがボトルネックになるかを十分に考慮したうえで、Webベースのメールの読み書きと負荷分散を行うフロントエンドサーバの台数を最も多くする提案をした。また、メールサーバは、十分な事前検証を経た上でActive/Activeのクラスタ構成を提案。Active/Passiveのクラスタ構成に比べて、限られた予算を有効活用しながら、システムの信

頼性を高める工夫を凝らしたのである。

「1万4千人規模のメールシステムを分散から集中に変え、プラットフォームもUNIXからWindows®に変えるのですから、不安感は強いものがありました。技術力の高さを感じさせる日立の提案は、その不安をみごとに払拭してくれたのです」と大久保氏は言う。

ほかにも、不安を払拭する要素が2つあった。ひとつは、日立とマイクロソフトの合併会社である株式会社ネクスタイド(以下、ネクスタイド)が、システムインテグレーションの前面に立っていたことだ。ネクスタイドは、大規模なシステムの構築に慣れている日立のノウハウと、Windows® 2000 Advanced ServerやExchange 2000 Serverを熟知しているマイクロソフトの技術力を融合させることができた。

「ネクスタイドはマイクロソフト製品を使った構築実績が豊富であるうえ、毎週レポートを出して、進捗を知らせてくれるなど、プロジェクト管理のノウハウも優れていると感じました」と、鹿島建設 ITソリューション部 情報基盤グループ 本生 亜矢子氏はにっこりする。

もうひとつの要素は、最新のIntel® Xeon™ プロセッサ搭載サーバ「HA8000」と、日立のディスクアレイサブシステム「SANRISE」の組み合わせによって到達した、高い信頼性とパフォーマンスの境地である。HA8000は、ミッション・クリティカルな業務にも耐え得るパフォーマンス、信頼性、可用性を兼ね備えた1Aサーバであり、「集中によるサーバ負荷の増大」に対する不安を払拭する力を持っていたのである。

管理の大幅省力化とグループウェアならではの コラボレーション環境を実現

新しいメールシステムは、2002年4月から本格運用を開始した。メールシステムの刷新によ

る効果は、2つの局面から評価できる。

第1に、管理の手間とコストが軽減できた。

まず、Active Directory™とExchange 2000 Serverの最強の組み合わせによって、ユーザーID/パスワードの一元管理が実現した。また、サーバの集中設置により、10カ所23台のサーバを管理していた担当者が解放された。その省力効果は、120人日/年に相当する。さらに本社でも、メールアドレス管理に携わっていた人手が削減された。こちらは、何と240人日/年に相当する大幅省力化である。

第2に、コラボレーション環境が整った。グループウェアの掲示板やスケジュール共有の機能を利用して、業務がスムーズに進められる。特に、Exchange 2000 Serverで構築したワークフローは、複数の部署にまたがる承認作業をスピードアップするのに役立っている。

「承認の仕組みを変えて、同報配信なども行うことによって、稟議書を回すのにかかる時間が3分の1に短縮できました」と本生氏は言う。

次の課題は、業務単位/職制単位でバラバラに構築されてきたポータルを整理し、全社統合の使いやすいポータルを構築していくことである。

「構築中、構築後にも痛感したのは、日立のハードウェアは故障率が極めて低く、しかも人的サポートが手厚いことでした。パソコンもその大半を一気に買い換えましたが、多くは日立製品を採用しました」と渡辺氏は言う。

基幹システムの一翼を担うミッション・クリティカルなメール・システムを24時間365日、止まらない高信頼・高可用性サーバ「HA8000」でサポートサービスが「今日もがっつり」と支えている。



- ・ Intel, Intel Insideロゴ, Xeonは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
- ・ Microsoft, Windows, Windows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ 会社名、製品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

お問い合わせ

株式会社 日立製作所

インターネットプラットフォーム事業部 マーケティング部
〒140-0013 東京都品川区南大井6-26-3 大森ベルポートD館
TEL.03-5471-2942 FAX.03-5471-3970
<http://www.hitachi.co.jp/ha8000/>

